

# 放電の庭

渡辺 信明  
nobuaki WATANABE

渡辺信明（わたなべのぶあき）1962年、滋賀県生まれ。  
1988年、京都市立芸術大学大学院美術研究科を修了。1987年、ギャラリー16（京都）にて初個展を開催。以降、ギャラリーすずき（京都）、ギャラリー白（大阪）、複眼ギャラリー（大阪）、ギャルリ・プス（東京）、テンバ・Aギャラリー（大阪）等で個展を開催。主なグループ展に1991年、現代美術'91—素材はいろいろ—（徳島県立近代美術館・徳島）、次代を担う作家展（京都府立文化芸術会館・京都）にて優秀賞を受賞。1992年、筆跡の誘惑—モネ、栖鳳から現代まで—（京都市美術館・京都）。1994年、アート・ナウ'94—啓示と持続—（兵庫県立近代美術館・兵庫）。1996年、VOCA展'96現代美術の展望（上野の森美術館・東京）。1999年、風の芸術展（枕崎市文化資料センター・鹿児島）にて準大賞を受賞。2001年、京展（京都市美術館・京都）にて京展賞、京都市美術館賞（コレクション賞）を受賞。2003年、吉原治良賞展（大阪府立現代美術センター・大阪）にて優秀賞を受賞。2006年、京都市芸術新人賞受賞。2007年、“ダイアローグ”コレクション活用術vol.2（滋賀県立近代美術館・滋賀）。2008年、京都美術ビエンナーレ（京都府立文化博物館・京都）等、多数出品。現在、京都市立芸術大学教授。

TITLE  
2015

蒸れた匂い、擦れる音、光る水滴。生い茂ったオールオーバーな庭空間に身を沈めと、そこには失った遠近が新たな活気を帯びる。絵画的磁場を感じる。それはモノの輪郭を稲妻になぞらえたような曖昧な境界でありながら、描かれるべきイメージを予感する。新たなフィールドでもある。

今回、久しぶりに映画スクリーンのような大きなキャンバスに描きはじめた。私は画面の内と外を行ったり来たりしながら、稲光りし強烈に静止する場に立ち会おうとしている。つまり作品は部分と全体がある瞬間にひっくり返ることが重要である。

GALLERY  
SUZUKI

NEW PAINTINGS 6.23-7.5 2015